



Saint-Jeannet の丘の上から見る夜景



丘の上まで一緒に行つた友人



フランスに来てから、あっという間に3ヶ月が経ちました。1日1日が過ぎて行くたび、時の流れの速さを感じています。フランスの生活にもだいぶ慣れてきて、授業も中間発表を控え、いよいよ本格的に忙しくなってきた頃、円安が進み、ユーロが右肩上がりに高くなっていました。これからの生活に不安を感じつつも、工夫を凝らしながら日々の生活を送っています。

南フランスの治安について

これまでフランスで生活してきて、幸いにも身の危険を感じるほど危険な出来事には会っていません。これから残りの留学生活でも、安全には十分気をつけて過ごしていきたいと思っています。ここでは、私の体感と、同じ学校に通う現地のフランス人の友人の意見もふまえて、南フランスの治安についてお伝えします。

私の住んでいるニースのエリアは、フランスの中心部であるパリに比べると、治安は良いとされているようです。ストライキなどで電車が止まってしまったり、通常の運行時間から大幅に変更されることなど、公共交通機関に影響が出ることはありますが、スリなどの犯罪に遭う確率は比較的低いように感じます。

とはいっても、夏のバケーション期間やクリスマスシーズンなど、観光客で賑わうニース旧市街のエリアでは、スリに遭う確率が上がるため、観光客でなくても十分に気をつける必要があります。

また、多くのBESIGNの学生が住んでいる学生寮は、コートダジュール空港の近くに位置しています。その周辺は少し危険度が高いようで、暗くなり始めた頃に出歩く際は、特に注意が必要です。

学校でのイベントについて

私たちの学校には、いわゆるサークルのようなものは存在していません。しかし、「BESstudent」というコミュニティがあり、そこに所属している学生たちによってイベントが開催されています。これまでに、学期始めのウェルカムパーティーやハロウィーンパーティ、サンクスギビングのCultural Food Dayなどがありました。

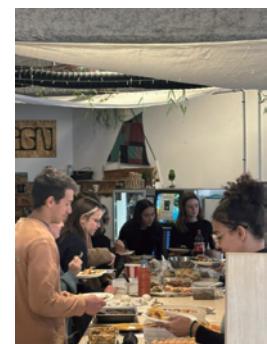
月にもよりますが、9月から11月の間は毎月何かしらのイベントが開催され、さまざまな学年の人と関わる良い機会になるため、私もよく参加しています。

11月にはサンクスギビングのイベントがあり、各国から来ている留学生がそれぞれの国の料理を持ち寄り、いろいろな国の食事を共有するというものでした。見たことも聞いたこともない料理がたくさんあり、どの料理も新鮮で、新しい発見があり、とても貴重な経験になりました。

BESstudentのイベント以外にも、今学期交換留学生として来ている学生同士でお互いの家に集まり、各国の料理をシェアする機会もあり、異文化を体験できる場がたくさんあります。



サンクスギビングの様子



トルコからきている留学生が振る舞ってくれたトルコの朝食



友人が淹れてくれたトルココーヒー



ショッピングモールのクリスマスツリー



ニースのクリスマスマーケット

フランスのクリスマス

日本のショッピングモールにクリスマスツリーが並び始めるのは、早くて11月の中旬頃からだと思いますが、ニースでは早いところで11月の上旬からクリスマスツリーが見られました。10月のハロウィンが終わったと思ったらすぐにクリスマスマードがやってきて、国によってこのような季節のイベントへの熱意に違いがあるのだと、改めて感じました。

しかし、中には「少し早すぎる」と感じている人もいるようで、同じ学年の学生と「クリスマスの飾りはいつからするのか」などについて話すと、人によって感じ方が全く異なり、とても面白いディスカッションになります。

ニースの中心地では、クリスマスの約1か月前からクリスマスマーケットが開催されます。11月25日からマセナ広場という大きな広場の付近で開催され、クリスマスまでの1か月間、誰でも参加することができます。入場料は無料で、入り口では手荷物検査を受けてから中に入ります。

マーケットの周りは柵で囲われており、入り口の手荷物検査に加えて、中では警察官が見回りをしていて、大人から子供まで安全に楽しめるよう対策が取られています。マーケットでは、クリスマスのオーナメントやクリスマスならではの食べ物などが売られています。

私も11月の終わりに友人とクリスマスマーケットに行きましたが、美味しい食事を楽しめただけでなく、観覧車などの遊具もあり、1か月限定の特別なテーマパークのようとても楽しかったです。まだクリスマスまで時間があるため、もう一度訪れたいと思いました。

日本人として生活して感じること

フランスに来て間もない頃に感じていた驚きも、今では日常の一部になり、だんだんと「自分はフランスで暮らしているのだな」と感じるようになりました。まだまだ日本との違いに驚くことはありますが、それでも「ここは日本ではないのだから」と、フランスの基準で物事を捉えられるようになりました。

それと同時に、自分にとって当たり前だと思っていたことが、こちらでは当たり前ではなかったのだと気づく場面も多く、これまで自分がどれほど恵まれた環境にいたのかを改めて実感しています。

学校の友人たちは日本に興味を持っている人が多く、「日本の食べ物が好き」「日本のアニメが好き」など、日本のさまざまな文化に関心を持って接してくれます。私からすると、これまであまり意識してこなかったようなことを彼らの視点で見つめ直してくれるため、彼らのおかげで新たな気づきを得る場面が多くあります。こうした経験ができるのも、さまざまな国から留学生が集まるBESIGNならではだと感じました。

終わりに

次回の内容はまだ未定ですが、次回の月例報告書も楽しみにしていてください。



家の近所の猫
たまに学校帰りに家の周りで待っていてくれる